JGS 勉強会
テーマ　『カシミール・サファイアの魅力に迫る』
講師　　中央宝石研究所　北脇裕士博士
リポート　幸谷由利子

今回は、長く続くコロナ禍で、初めてのリアル勉強会でした。
幻の宝石と呼ばれているカシミール・サファイアについて、その美しさと希少性を学ぶ事ができました。

深い色でありながら鮮やかさのある魅惑的な青色と、強い表面光沢と内包する微細インクルージョンによるヘイジー効果が相関し、ベルベッティーと称される独特の輝きを持つこの宝石の美しさを北脇博士の解説を踏まえて、実物を手にとり観察できたことは大変貴重な経験となりました。
ハンドリングでは、JGS カシミールサファイア以外にも個性の異なるカシミール産サファイアが数点と、また、産地違いの良質なブルー・サファイアが取り揃われ、色と輝きの違いを比べる事ができました。

カシミール・サファイアが圧倒的な魅力を誇示する中、ミャンマー、スリランカ、マダガスカル、ナイジェリア、どの産地のブルー・サファイアにも特有の美しさが認められました。また大陸移動と生成年代について、及び母岩の種類についても北脇博士から解説があり、産地ごとの特徴と美しさを科学の視線から捉えることもできました。
宝石が類い稀な存在であるのは周知の事ですが、殊、カシミール・サファイアの希少性は群を抜いていると改めて考えさせられました。カシミール地方が現在ナイーブな社会情勢下にある事。鉱床は空気の薄い標高 4500m 付近にあり、万年雪に覆われ、崖崩れしやすい場所である事。採掘がどんなに困難であるかは想像を超えるのだと思います。実際に流通されたのは、わずか六年程との事で、カシミール・サファイアが、宝石の仕事に携わるプロでさえ、その生涯に一度見れるか見れないか、と言われるのも納得できます。
注意したい事項として、近年に流通している帯紫青色のパキスタン・バタクンディ産のサファイアもカシミールと謳っている事があります。しかしこれは、従来の産地であるジャンム・カシミール産のサファイアこそを伝統的なカシミール・サファイアとしているので、鑑別機関では明確に区別しているとの事。
因みに、日本においてカシミールの産地鑑別は１９９４年から始めた、との事でした。

今回、カシミール・サファイアの魅力を通して、詳しく解説下さった北脇博士、並びに教材として多数のブルー・サファイアをご準備くださった皆様に感謝申し上げます。

以上。